

令和5年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

目指す学校像	・地域と協働した探究的な学びを通して、社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から信頼される進学を重視した学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導・進路指導を充実させ、確かな学力と主体的に学ぶ力を育成し、進学実績の向上を目指す 探究的な学びを推進し、他者との協働活動に積極的に参画する態度と協働する力の育成を目指す 人間としての在り方生き方に関する教育を実践し、他への寛容な心、思いやりの心を醸成し、相互理解と人権意識の育成を目指す 保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校運営協議会
委員 10名から意見等を聴取

学校自己評価							
年度目標				年度評価(1月1日現在)			
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ステップアップクラス編成により、生徒の多様な進路希望に応えている。 Google クラスルームを活用したHRや授業の運営が実施できている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習習慣を確立させ、学習意欲を向上させる必要がある。 3年後を見据えて、特進クラスの学力を更に伸ばす指導をする必要がある。 各教科において、ICTを活用した授業実践を更に進める必要がある。 	生徒の学習意欲を高め、進学実績の向上につなげる	<ol style="list-style-type: none"> 朝学習や自習室での学習を意識づけ、学習習慣をつける指導を行う。 学習サポーター等を活用して学習支援を行い、学習意欲を向上させる。 学校全体でICTを活用した授業の研究を研修会等を通じて行う。 生徒一人ひとり丁寧な指導を行い、進学実績の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣をつけさせることができたか。 学習意欲は向上したか。 各教科で、ICTを活用した授業実践を進められたか。 進学実績は向上したか。 	<ol style="list-style-type: none"> 今年度より朝学習の継続実施、及び自習室の解放など、学習習慣の意識付けを行うことができた。 学習サポーター等を活用し、授業や自習室中心に学習支援を行うことができた。 ICT研修会及びICT活用の授業研究会を実施した。また、Google for Education 認定資格を今年度新たに23人が取得した。 生徒一人一人への指導は丁寧に行っており志高く進路実現に向かう生徒は一定数いる。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 朝学習の取組状況、及び自習室の利用人数の増加を図る必要がある。 学習サポーター等をより効果的に活用していく必要がある。 ICT活用について、引き続き教員研修会や授業研究を行っていく必要がある。 進路実績は大学一般選抜対象者の学力向上の方策を低学年時より積極的かつ効率的に実施することが課題である。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を、綿密な指導計画のもと実施している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学際的な学び推進事業と連動させながら探究的な学びを更に推進していく必要がある。 他校の探究活動を研究し、本校の探究活動に生かしていく必要がある。 	他者との協働活動に積極的に参画する態度と協働する力の育成を図る	<ol style="list-style-type: none"> 学校全体として、総合的な探究の時間を体系的に実施する。 学際的な学び推進事業を活用し、「地域創造学」を軌道にのせる。 他校の探究活動を視察し、研究することで本校の探究活動を振り返る。 	<ol style="list-style-type: none"> 学年ごとに共通のワークシートを用いて総合的な探究の時間を実施したか。 地域創造学を年間指導計画通りに行うことができたか。 他校を視察し、本校の探究活動を振り返ることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 学年ごとにテーマを変え、段階を踏まえ探究サイクルを回しながら探究学習を実施している。 おおむね年間指導計画どおり実施できた。また、生徒の希望に合わせ外部講師を派遣するなど、柔軟に対応した。 2月に島根県の探究活動について視察を行う予定である。 	B	<ol style="list-style-type: none"> 実施状況を振り返り、より良い探究を計画実践していく。 次年度3年生の地域創造学も含め、体系的な実施が必要不可欠である。 他校視察や探究発表会等で得た他校での取り組みを参考に、本校の探究スタイルを確立していく必要がある。
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの苦手な生徒や不登校傾向にある生徒など様々な課題をもつ生徒が在籍している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒間のトラブルが散見され、コミュニケーション能力の育成を図る必要がある。 生徒、保護者の課題に合わせて、関係機関と連携し、校内の支援体制を構築する必要がある。 	多様な困難を抱えた生徒へのきめ細やかな支援を行う	<ol style="list-style-type: none"> アサーショントレーニングやネットモラルの情報教育等から相手を思いやる心を育成する。 SCやSSW等を活用し生徒や保護者の心的ケアを図る。 教育相談等の支援体制を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> アサーショントレーニングや情報教育等を行うことができたか。 生徒や保護者の状況に応じて、適切に関係機関につながることができたか。 教育相談等の支援体制を構築することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 情報モラル等の情報教育を通して、相手を思いやる心の育成を図った。 SCやSSWと連携して生徒、保護者への支援を継続的に実施している。 関係者で情報共有を行うなど、教育相談等の支援体制について、構築できている。 	B	<ol style="list-style-type: none"> 人間関係を築くことが苦手な生徒に対し、丁寧にサポートしていく必要がある。 引き続き、SC、SSWと連携していく必要がある。 引き続き、生徒、保護者に適切なサポートができるよう支援していく。
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯能市役所及び商工会議所等と連携し、模擬面接指導を行っている。 学校説明会を全職員で工夫して実施している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を通じて、コミュニティスクールとしての役割を果たす必要がある。 新校情報を外部に積極的に発信し認知度を上げる必要がある。 ホームページを適宜更新するなど、本校の魅力を外部へ情報発信する必要がある。 	地域と連携して、本校の魅力発信に取り組む	<ol style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、運営方針に基づいた意見交換を行い、連携・協働による事業を検討する。 学校説明会等を通じて、中学生及び保護者をはじめ、関係者への情報提供を組織的に取り組む。 ホームページの適宜更新をはじめ、情報をあらゆる機会に様々な方法で適時に発信していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を計画的に実施し、連携・協働事業を検討できたか。 学校説明会等を組織的にかつ工夫して行うことができたか。 ホームページの適宜更新と様々な方法で適時に情報発信ができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を6/5、11/18、1/31に実施し、連携・協働事業を検討できた。 7/22、8/26、10/14、11/11、12/13、1/13に学校説明会を実施、更に11/25に中学生の興味に合わせたアドベンチャーデイを実施した。 定期的にホームページを更新した。更にはInstagram等を活用して適宜情報発信に努めた。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き、地域に開かれた魅力ある学校として地域と連携・協働していく必要がある。 中学校訪問等を教職員全体で実施し、新校の魅力や特色を広く発信していく必要がある。 飯能新校を知ってもらうため、引き続き、ホームページ等を活用し、情報発信に努めていく必要がある。

学校関係者評価
実施日令和5年3月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>【意見】 google for education 認定資格を23名の先生方が取得されていることは、素晴らしい取組みだ。特進クラス、単位制授業と生徒の多様な進路希望を見越した取組が良い。学習サポート体制も考慮され、生徒のニーズに対応している様子も素晴らしい。</p> <p>【要望】 学習意欲のさらなる向上のために朝学習の充実、自習室での効果的な学習に取組んでほしい。課題である大学一般選抜対象者の学力向上のための方策を研究し、低学年次から実施してほしい。</p> <p>【評価】 朝学習の実施や自習室の開放、また学習サポーターの活用によって生徒の学習意欲の育成と進学実績の向上を図り、一定の成果を上げたことは評価する。ICT活用について研修会や研究会を実施し、ICTを活用した授業実践に取組んだことは評価する。</p>
<p>【意見】 地域創造学を基盤に、飯能の特色を生かした年間指導計画があり、実施されていることはとても素晴らしい。他校の取り組み事例を視察研究されることは、非常に重要なこと。探究的な学びは、定着しつつある。</p> <p>【要望】 生徒間のコミュニケーションが図れる学び合いの場にも取組んでほしい。</p> <p>【評価】 学年ごとのテーマを設定し、学際的な学び推進事業と連動させながら、計画的に探究学習を進めたことは評価する。</p>
<p>【意見】 保護者、カウンセラー、外部の専門家の方々と共に連携を取ることと、先生と学生とのコミュニケーションが非常に必要だ。高校時代こそ「ルール」は叩き込み、「マナー」は時代に即して考えさせる。ネットで生きる人たちに、よりコミュニケーションをつくる場づくりが学校の使命のように考えるが。</p> <p>【要望】 困難を抱えた生徒に対するきめ細かな支援をお願いしたい。</p> <p>【評価】 情報モラル等の情報教育を実施し、他者を思いやる心の育成に取り組んだこと、就学上の困難を抱える生徒、保護者について、SCやSSWとの連携、関係者での情報共有を通じて支援する体制を構築したことは評価する。</p>
<p>【意見】 ホームページが充実している。入学してくる生徒にとって魅力ある学校であることを伝える努力がなされている。今後、特に情報発信方法等が問われる時代と思うが、そこで民間の専門職との連携が必要ではないか。SNSをはじめさまざまな媒体を活用して、新校としての魅力発信はとても大切。</p> <p>【要望】 地域に開かれた魅力ある学校として地域と連携・協働し、飯能高校の魅力発信と新高のピーアールに取組んでほしい。</p> <p>【評価】 学校運営協議会を計画的に実施し、地域との連携・協働事業について検討したことは評価する。学校説明会や中学生を対象とした企画等に組織的に取組むとともに、ホームページやInstagram等を通じて積極的な広報活動を行ったことは評価する。</p>